



随筆

「脱腸」始末

大西 巖*

事の起こりはタバコの喫い過ぎからと思われる。世にいうヘビースモーカーとしての基準量は知らないが、私のように日に40~50本を超えるのはまあまあ多い方であろう。身近かな連中で、健康保持のため禁煙に踏み切る者が急に殖えた気がするので、自分もひとつ流行のバスに乗ってみようかと娘婿に相談した。

外科の専門医である彼はにこにこ笑いながら「今頃からやめてもあきませんわ。タバコを喫って悪くなるような所は全部悪くなってる筈です。今更気がねなどしないでどンドン喫ってみたらァ」。さすがに「もしもの事が起こっても左程残念がる齢でもないし」とは言わなかったが、私にとっては有難いような有難くないようなお告げであった。

「なる程、彼の言うところにも一理あり」20才過ぎから半世紀以上も喫い続けて、今更禁煙とは何事ぞ。「ようし、何の気くばりなしに毛孔から煙の出る程盛大にやらして頂こう」ということになった。

毛孔から煙はなかったが、咳や痰の出方が多くなったのには閉口した。「咳痰が大量に出るとは燃料資源に悩む時代には有難い」などと、小学校低学年生のような駄洒落をとばす余裕はない。痰の方が喉にからんで、すんなりと出てくれないのが苦痛であり、癩でもあった。

このようにして約1年が経過したある日、喉もとにひっかかった痰がなかなか出てこないため、癩癩を起こした私は腹の底から全身をつかっている思い切り大きな咳をした。その瞬間、左下腹部の内側に鋭い痛みを感じた。これが私の「脱腸」の始まりということになる。

専門家によれば、腹壁筋の切れた部分から腹

膜に包まれた内臓（主に腸）が鼠径部などの皮下に姿を現わすらしい。外からおせば腸は元へ納まり、腹に力を入れたり、体を動かしたりすればまた出てくるとの由である。全くその通りであり、私の場合は最初うづらの卵ぐらいの大きさであったが、次第に出方が大きくなり、またまた腹筋の切れたと思われる数回に亘る痛みで出っばりは次第に下方へ降り、手術直前にはこぶし大のものが陰囊近くまで移行していた。

咳やくしゃみをして、待ってましたとばかり腸が大袈裟に出てくるので、そんな場合には予め両手の掌で鼠径部附近をおさえ、腸のとび出しを極力少なくするよう細心の注意を払ってきた。この約2年に亘る不便な日々の詳細は省略するが、漫画の素材になりそうなハイライトを一つだけ……。

朝のラッシュに地下鉄梅田駅のホームから人の流れに包まれて階段を上り切った時、運悪くくしゃみを催したものである。私は直ちに体を屈め、左鼠径部を両手でおさえ「ハックション」と勢よくやったものである。脱腸の方への悪影響は免れたが、思いもよらず上の方の入れ歯が1m近くも先へふっとんでしまった。入れ歯を踏まれてはこれまた大変と、すばやく体を伸ばし、ラクビーのトライのように右手で歯をおさえていた。幸い入れ歯の破壊は避けられたが、避け得られなかったのは、私をよけて通り過ぎた人波の注視であった。

腸が出てくることは日常生活に困るだけでなく、ついには腸閉塞や腹膜炎などになることもあるらしい。薬も効かず、脱腸帯も不便で実用になりにくいとなると手術以外に手はない。娘婿は「簡単視されている盲腸手術でも直接腸に触れるが、脱腸手術の方は腸の外の腹膜に触れるだけであるから、手術としては至極簡単」と

*大西 巖 (Iwao ONISHI), 大阪大学, 名誉教授, 工学博士

は言っていたが、やはり信頼出来る医師と病院を選んでくれた。

外科病棟の入院患者中、私と同年輩と思われる老紳士も「脱腸」とのことであったが、若い人達は「盲腸」が多かった。中には20才台の青年で、盲腸手術が終って退院間際に、大便所できばり過ぎ、「不運にも今度は脱腸の手術です」と歎いている気の毒な人もあった。

排便時にきばるくらいで腹壁筋が切れるなど不自然に感じられたが、何処かに欠陥があったのかも知れない。有名女子バレーボール選手が腹筋を切って療養中とのニュースがあったが、女性の脱腸は男性10名に対し、僅かに1～2名程度ときく。前述の気の毒な青年の盲腸、脱腸ダブルパンチの事実と共にこれまた不思議なことである。

幸い手術後1週間目で抜糸終了、あとはついでに人間ドックらしい事を簡単にとお願いした。先ず第一に間違いなく悪くなっている所は脳と確信していたのに、脳の検査はなく、胸、腹部レントゲン、糖尿、心臓、血圧などの検査をして頂いただけである。

この度の入院での最大の副収獲は、私が喫煙を全然やめたことである。「タバコを喫うから咳や痰が出るのです。咳や痰が出て脱腸になったのだから、そのもとであるタバコをやめたらよろしい」婦長さんの至極明解な論法に「なる程そうか」と禁煙に決めた。相当多額のタバコ税をお納めした喫煙者の禁煙がこんなに楽に実行出来るものとは思ってもいなかった。隣にタバコを喫う人がいても一向苦にならないのみか、パイプタバコや葉巻きの香りが来ればむしろ有難い。タバコ値上りのニュースなど、もちろん気にならない。

退院後、日頃お心やすくして頂いているS社のT会長にお会いした。

「どこの手術をなさったのですか」

「脱腸です」

「あれは子供がするものと違いますか。うちの孫はたしか幼稚園前後にやりよりましたよ」

「わたしはちょっと遅れとりますねん」

その瞬間の会長さんの笑顔が頗る印象的であった。

(筆者；大阪大学名誉教授)